科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP	学習成果
演習	照井　遥瑛	演習	4		1,2,3,4	1,2,3,5	1,2,3,4

授業概要 授業目的	テーマ:「様々な社会現象に対して民法の視点から多様な価値観に触れること」 　本演習では、著名な裁判例、著名な学者の論文等から、受講生が興味のある民法に関わるテーマを選択し、報告をしてもらう形式を採る予定です。民法の学習において基礎的知識の修得は勿論大事ですが、特に重要なことは、「ある問題に対する考え方は一つではなく、さらには時代や人が変われば結論も変わる可能性がある」という目線を持つことです。調査・報告・討論を繰り返し、研究成果を卒業論文として残すことは、そのような目線を持つことができるようになるだけでなく、論理的思考力や報告能力の向上にも繋がりますし、どのような進路に進むにしても必要な修練です。
到達目標	①文献調査・報告等を通じて、法的な問題を発見する力、簡潔に報告する力を身に付けること。 ②卒業論文の執筆を通じて、論理的な文章を書く力を身に付けること。

回	学習内容	回	学習内容
1	前期ガイダンス（自己紹介、演習の進め方、成績評価方法の説明など）	16	後期ガイダンス（卒論の執筆についてなど）
2	研究倫理について学ぶ	17	夏休み中の研究成果を報告
3	判例検索の仕方を再確認	18	卒論の目次を作成してみる
4	論文検索の仕方を再確認	19	売買後に規制された物質による土壌汚染の判例について討論
5	各受講生から関心のあるテーマについて報告	20	未成年者の不法行為と監督義務者の責任の学説について討論
6	執筆計画を立ててみる	21	内縁・事実婚をめぐる法的問題について討論
7	報告資料をレジュメで作成してみる	22	子の引渡請求をめぐる法的問題について討論
8	報告資料をパワーポイントで作成してみる	23	無権代理と相続をめぐる法的問題について討論
9	卒論進捗報告	24	卒論の序論に焦点を当てた報告
10	各受講生の卒論テーマを決定する	25	卒論で扱う判例に焦点を当てた報告
11	民法 94 条 2 項の類推適用の判例について討論	26	卒論で扱う学説に焦点を当てた報告
12	民法 177 条と第三者の学説について討論	27	卒論の結論に焦点を当てた報告
13	卒論中間報告	28	最終報告用の資料を作成してみる
14	夏休み中の執筆計画を各自報告	29	卒論最終報告
15	前期まとめ	30	後期まとめ

予習内容 復習内容	予習：事前に配布する資料や報告者が報告するテーマに関する判決や文献に目を通すこと。 復習：演習で扱ったテーマや専門用語を、書籍、レジュメ、ノート等で確認すること。
教科書	特に指定はしませんが、最新年度版の小型六法を必ず持参してきてください。また、報告テーマを決める上で有意義な書籍については開講時に紹介します。
成績評価	報告・発言（50%）と報告レジュメや卒業論文等の成果物（50%）を総合して成績評価を行います。
実務経験	
その他 特記事項	今年度から本学に着任しました。一緒に相談しながらより良い演習にしていきたいと思っています。演習の主役は学生ですから、積極的に参加しようとする意欲をもって毎回出席してください。教員として、そのためのサポートを惜しみません。 民法Ⅰ、民法Ⅱ、民法Ⅲ、家族法を履修していることが望ましいです。なお、演習内で挑戦してみたいことがありましたら、遠慮なく申し出てください。